

2024.9.13 俳壇賞2024 B全197 選35句

壇 春燈や一番星に先んじて

壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜

壇 湖の水面に吹かれ草の絮

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 爽やかに拾ひし物は持ち主に

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 予報たがはず連日の大夕立

壇 手つかずの九月ぞ昼も夜も励め

壇 釘を叩けど螺子を締めれど日短

壇 西日いまビルの中を舐るなる

壇 音はソウ訓はさはやか天高し

壇 文明や燃えぬ懐炉に火傷して

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 稲妻のその次を待つ闇の中

壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 百千の蟬も加はる夏期講座

壇 はあああとローマの月を唄ふなり

壇 子猫より十倍老いて炬燵猫

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 仰向けに海に浮べば月丸し

壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 満を持して背ナを割りたる蟬の殻

壇 木作とはいへど田を刈る他はなく

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 我は我十日の菊を卓の上

壇 がつしりと根つ子初日を浴びずとも

壇 もの掛けて古釘折れぬ黴の家

壇 ずんぐりとして藁塚の尖りをる

壇 老い先を照らすが如く初日の出

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

2024・9・14 俳壇賞2024 B 全21句 選22句

9.15

3 201

壇 予報たがはず連日の大夕立 壇 我こそは十日の菊を愛づる者

6:45 1:51 am

壇 窓からの蟬に騒然夏期講座 壇 ずんぐりとして墓塚の尖りをる

9.15 1:50 am

壇 水音の激しきプール開きかな 壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

はま 3:37 am

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 空蟬と博物館の大鑑 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 文明や火なし懐炉に火傷して

壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 新鮮な九月ぞ昼も夜も励め 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 音はソウ訓はさはやか天高し 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 秋雨のこの一雨の尊とけれ 壇 古い先を照らす如く初日の出

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

に幸ふかれと 9.15 1:49 am

2024.9.15 俳壇賞2024 B 全20句

9.15
9.18
9.20

4

選13句

12行3段組14ボ
2024年9月15日 05:27 < 1 > 桐10

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 空蟬と博物館の大鑑

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 孟蘭盆会死者も元気な顔見せよ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

おひんをさる

おひんをさる

9.20
14:40

~~湖の漣が絡つて年の舞~~

大まな水田

9.20
14:42

9.20
11:50
am

~~来季こは星屋や春の舞~~

まご二良と元へ戻らぬ

一戻らぬ

9.15
13:30

20
24
9.18
3:15
am

9.15

2024・9・23 俳壇賞2024 B 全110句 選21句

9.23
1)

6

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 蟪蛄の鳥に食はるることもかな

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 大いなる湖の水面へ草の絮

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 着ぶくれし人に困まれ横たはる

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 毛皮好きなれど悪人とも言へず

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 鏡台は燃えつつ火事を映しをる

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

9.23
10:10
am

夕方に毛皮と鏡台を
2024
9.23
11:25
am

2024・9・23【俳壇賞2024 B 全115句】 選21句

9.23
" 9.24

ア

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

~~壇~~

ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 蠟螂の鳥に食はることもかな

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 鳥は小さく鳥は大きく秋の晴

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

救えん

ギョーザの色

ひかり → a. 2. 5
平成 30 年 9 月 25 日

2024・9・24【俳壇賞2024 B 全13句】選26句

9.25

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 逆壇 蟪蛄の鳥に食はるることもかな 水水仙

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ 逆壇 毬栗のまだ柔かな青二才 壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子 壇 月見から雪見の間を紅葉見て 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 子子も食つて元気な目高の子 逆壇 湖の方へ吹かるる草の絮 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 空蟬と博物館の大鏡 壇 読み終へて夜長の本の余韻かな 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ 逆壇 初雪を半時で消す雨の夜 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴 逆壇 釘打と螺子を締めれど白短 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 純白に踏まれ参道の霜柱 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 受付に毛皮を預け肉食す 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな 壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 我こそは十日の菊を活ける者 逆壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり 壇 老い先に幸多かれと初日の出

12行3段組14ポ 2024年9月24日 21:38 ↑ 1 桐10

Handwritten notes and corrections in red ink, including phrases like 'この夜の夜長' and '雪の夜長' with time stamps such as 6:35 am, 6:36 am, 6:39 am, 6:41 am, 6:42 am, 6:43 am, 6:51 am, 6:53 am, 6:57 am, 7:12 am.

2024・9・25【俳壇賞2024 B 全129句】 選8句

9.25
9.26

9

24

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 蟪蛄の鳥に食はるることもかな

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ 壇 稗栗のまだ柔かな青二才

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子 壇 月見から雪見に至る紅葉かな

壇 子も食つて元気な目高の子 壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の衣鑑 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ 壇 参道の一步一步や霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴 壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 ~~着~~着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 我こそは十日の菊を活ける者 壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく 壇 老い先に幸多かれと初日の出

稲刈り 9.26 1:50 am

締めし 9.26 1:47 am

2024・9・26【俳壇賞2024 B 全135句】 選26句

9.26

10:30 am

10

壇 赤ん坊のやはらかな肉ひな祭

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 不作とはいへど田を刈る他はなく

壇 蛸の鳥に食はるることもかな

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 繙栗のまだ柔かな青二才

壇 月見から雪見に至る紅葉かな

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 参道の一步一步や霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 教科書よノートよ梅雨のランドセル

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步や霜柱

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

詩のほつた

10:35 am

も 9.26 8:25 am

かよ 9.26 14:15

9.26 8:30 am

も 9.26 10:40 am

2024・9・26【俳壇賞2024 B 全152句】選28句

9.26

11

~~壇~~めらめらと音おそろしき畦火かな

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 もちもちの嬰のほつぺた雛祭

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 不作とはいへど稻刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 蟻螂の鳥に食はるることもかな

~~数な~~ 数な 陰敵の境のり行く

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

2024.9.26 18:35

壇 捗りて植田日和の眩しけれ

壇 月見から雪見に通ふ紅葉かな

数教をねは即ち数教の了り

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

たかろ 18:37

壇 道のべに阿波の遍路が買ふトマト

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

18:56

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步の霜柱

18:57

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

18:57

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 野火畔火焚火もなさで年果つる

18:57

2024
9.27
4:50 am
9.27

2024.6.26 【俳壇賞2024 B 全15句】 選28句

12

壇 もちもちの嬰のほつぺた雛祭の9.27 0:18 am

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 不作とはいへど稲刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 蟻螂の鳥に食はることもかな

雪解けて色々々もみもみ色々に
2024 9.27 7:25 am

壇 撈りて植田日和の眩しけれ

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる

壇 月見から雪見に通ふ紅葉かな

壇 空蟬と博物館の大鏡

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 参道の一步一步の霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 野火畔火焚火もなさで年果つる

12行3段組14ポ 2024年9月26日 21:52 へ1 桐10

2024・9・27 俳壇賞2024 B 全160句 選29句

9.27

13

壇 雪解けて色々なもの色々に 壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上 壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭 壇 爽やかに帰つて来る落し物 壇 野火畔火焚火もなきで年果つる

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ 壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな 壇 老い先に幸多かれと初日の出

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 我こそは十日の菊を活ける者 壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子 壇 不作とはいへど稲刈る他はなく 壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 蟪蛄の鳥に食はるることもかな

壇 捗れば植田日和に風が吹く 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる 壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな

壇 空蟬と博物館の大鎧 壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ 壇 参道の一足ごとの霜柱

壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴 壇 受付に毛皮を預け肉食す

2024.9.27
24.9.28
6.27
【俳壇賞2024 B 全168句】 選30句

壇 雪解けて色々なもの色々に △ 鳥は小さく島は大きく秋の晴

壇 ⊗ 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島 壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 ⊗ つまんでもみたきほつぺた雛祭 壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ 壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子 壇 不作とはいへど稲刈る他はなく

壇 子子も食つて元気な目高の子 壇 蟪蛄の鳥に食はることもかな

壇 捗れば植田日和に風が吹く 壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる 壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな

壇 空蟬と博物館の大鏡 壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 道のべに阿波の遍路がトマト買ふ 壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ 壇 参道の一足ごとの霜柱

12行3段組14ポ 2024年9月27日 22:15 へ↑ 桐10

長き日を送る秋送 秋送か
 2024.9.28 21:57 am
 4:30 am
 夕刻つてあつたか如く 暮明くる
 生かす 9.28 10:01 am

2024・9.28 俳壇賞2024 B 全173句 選30句

壇 雪解けて色々なもの色に出づ

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 永き日を廻る鉄道模型かな

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 野火畔火焚火もなさで年果つる

壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 不作とはいへど稻刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 蟻螂の鳥に食はるることもかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 抄れば植田日和に風が吹く

壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 道のべに阿波の通路がトマト食ふ

壇 参道の一足ごとの霜柱

2024.9.28 壇2024全選30句

ok 9.28 9.29

75

16

壇 立春の湯気のご飯とおみそ汁

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 雪解けて色々な色あらはるる

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 永き日を廻る鉄道模型かな

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 野火畔火焚火もなきで年果つる

壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 不作とはいへど稲刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 蟻螂の鳥に食はるることもかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 抄れば田植日和に風が吹く

壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鑑

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 道のべに阿波の遍路がトマト食ふ

壇 参道の一足ごとの霜柱

2024・6・29【俳壇賞2024 B 全178句】 選30句

17 end

壇 立春の湯気立つご飯おみそ汁

壇 お盆なり死者も元気な顔見せよ

壇 受付に毛皮を預け肉食す

壇 雪解けて色々な色あらはるる

壇 秋なれや栗毛の猫を膝の上

壇 冬眠の古傷疼く夜なりけり

壇 永き日を廻る鉄道模型かな

壇 爽やかに帰つて来る落し物

壇 野火畔火焚火もなさで年果つる

壇 桃の花咲けば酒盛り鬼ヶ島

壇 尖らせて口紅つかふ厄日かな

壇 古い先に幸多かれと初日の出

壇 つまんでもみたきほつぺた雛祭

壇 我こそは十日の菊を活ける者

壇 緋の色の緋鯉を沈め寒の水

壇 頭よくなれと目刺の苦き食ふ

壇 不作とはいへど稻刈る他はなく

壇 きつぱりと「私、咲きます」水仙花

壇 人の子は赤子鴉の子は黒子

壇 蟻螂の鳥に食はるることもかな

壇 子子も食つて元気な目高の子

壇 毬栗のまだ柔かな青二才

壇 捗れば田植日和に蝶が舞ふ

壇 月見から雪見にかよふ紅葉かな

壇 無数とは即ち無敵蟻たかる

壇 湖の方へ吹かるる草の絮

壇 空蟬と博物館の大鎧

壇 釘打てど螺子を締めれど日短

壇 道のべに阿波の通路がトマト食ふ

壇 参道の一足ごとの霜柱